

研修報告書 No.10

この度、2024年9月の1か月間、高知県で地域医療研修を行いましたので、今回の研修で学んだことを報告します。

研修内容としては主に外来診療、病棟管理、救急対応でした。外来診療に関しては内科診療に加えて、外科外来、小児科外来、耳鼻科外来を経験することができました。

自分の外来を持つことは初めての経験であり、予約外で来る患者さんを決められた時間内に診察を行い、かつ見落としがないようにしなければならないことに難しさを感じました。先生方のご助言のおかげもあり、医療面接と身体診察の結果、本当に必要な検査であるか改めて考える良い機会となりました。また、自分の研修病院は大学病院であり、治療することに積極的な患者さんが主に受診されることが多いです。しかし今回の研修先は市中病院であり、積極的な検査、治療を望まない患者さんも多くおられました。そのため医療面接や身体診察から、さらなる検査が必要であると判断したとしても、患者さん自身が積極的な検査を望まないケースを度々経験しました。その検査が必要な理由、検査のメリット、デメリットについて説明しても、社会的な背景を理由に検査を受けてもらえないことがありました。自分が経験してきた環境とは異なる環境で生活してきた患者さんに対して、どのように説得すれば良いのか、また、共感の姿勢を示し心に寄り添った話し方をするためには自分は知識不足であることを痛感しました。大学病院でも市中病院でも、その土地に合った説明方法や寄り添い方があるため、もっと幅広い知識を勉強するように心がける良いきっかけとなりました。

外科外来では、内科診療より更に経験したことのない外来を経験することができました。乳癌の術後の患者さんや、甲状腺摘出術の既往のある方の診療をする機会が多く、その際に聞かなければならない症状、検査を考える機会がこれまでなかったため、非常に勉強になりました。また、消化器外科の手術に参加する機会もあり、縫合や腹腔鏡手術のカメラ操作など様々な手技を経験することができました。また、麻酔の導入に参加する機会がありました。研修先の病院ではマックグラスでの挿管の経験がなく、今回の研修で初めてマッキントッシュで挿管を行いました。マッキントッシュならではの挿管の難しさや、挿管する際に気をつけるポイントを学ぶことができ、マックグラスがない病院でも挿管を行える自信をつけることができました。

病棟業務では、自分が主治医となって入院時の検査や点滴、食事内容について考える経験ができました。毎日患者さんと対話、診察を行い、指導医の先生や作業療法士の方と相談しながら今後の方針を決めていくのは今までになかった経験であり、専攻医に向けて貴重な経験となりました。

救急診療では、地域ならではの疾患を見学することができました。特に印象に残っている

のは、猪咬傷です。東京では猪に咬まれた事例は経験がなく、咬まれたらどの程度の症状が出現するのか、ワクチンは他の咬傷と同じで良いのか、色々な文献を用いて調べる機会をいただきました。

初めての土地、初めての病院で右も左もわからずおろおろしている私に、先生方、看護師の方々、医療スタッフの方々が皆さん気にかけてくださり、声をかけていただいたおかげで、安心して研修を行うことができました。仕事面でも生活面でも慣れることで精一杯の時期に、事務員の方々に温かい声かけをいただいて、1ヶ月間を更に充実したものにできたように思います。自由な時間ができた時に手術室に行くと、急にも関わらず色々なことを教えてくださり、歓迎してくださるスタッフの方々のおかげで、積極的に研修に取り組むことができたため、様々な経験をすることができました。最後になりますが、病院のスタッフの方々、今回の地域医療研修を支えてくださった高知医療再生機構の方々、研修にご協力いただきました患者の皆様に深く感謝申し上げます。